



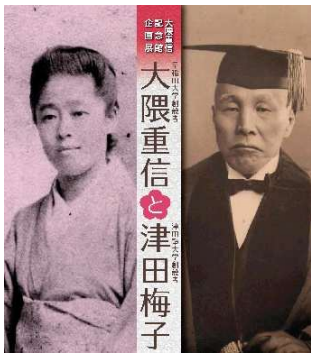
厳しい寒さの冬に終りを告げ、春の息吹を感じる今日この頃です。梅から桜へとこれから華やかな季節へと移り変わって行きます。春は、卒業や入学、就職など新しい生活がスタートする時期でもありわくわくするような気分になり、行動的な季節ではないでしょうか。世界中を動揺させ、社会全体に大きな打撃を与えた新型コロナウイルスも、幾度となくうねりを繰り返しながら推移していますが、今年こそ皆さんにとって幸せな一年が送れることを願っています。

大隈重信侯 102 回忌 法要

令和 5 年 1 月 10 日(火)、大隈家の菩提寺である龍泰寺(佐賀市)において、大隈重信記念館保存会主催で 102 回忌法要が営まれました。法要では、重田佐賀市議会議長はじめ大隈侯が創設した早稲田大学卒業生でつくる佐賀稲門会のメンバーなど約 50 名が出席し、厳かに執り行われました。住職の読経が流れる中、参列者が順次焼香を行い、佐賀が生んだ明治期に活躍した郷土の偉人大隈侯を偲び、手を合わせました。また、早稲田大学卒業生で佐賀を中心に活動する薩摩琵琶奏者の北原香菜子さんにより献奏が行われ、琵琶の伴奏により参列した稲門会員が早稲田大学の校歌を歌い上げ、華を添えていただきました。



本堂での法要終了後には、お寺の山門の傍に祀られた大隈家のお墓にも、皆さん参拝され、最後にはお寺を背景に集合写真を撮り、無事法要の儀式が終了しました。参列いただいた皆様、大変お疲れさまでした。



令和 4 年度 記念館企画展を開催

2 月 21 日(火)から 3 月 21 日(火・祝)までを開催期間として、令和 4 年度の大隈重信記念館企画展を開催しています。

今回のテーマは、『大隈重信と津田梅子』と題し早稲田大学の創設者である大隈侯と津田塾大学の創設者である津田梅子を取り上げました。真の女性の自立のためには女子高等教育機関の創設が不可欠と考え、日本初の私立女子高等教育機関である女子英学塾(現 津田塾大学)を創った津田梅子。日本の女子教育発展のため留学生を支援し、女子高等教育機関の創設・運営などに力を貸し、自らも“学問の独立”を掲げて東京専門学校(現 早稲田大学)を創設した大隈重信。この二人の関わりや女子教育論などについて紹介しています。期間中には、佐賀市ですっかり定着した『佐賀城下ひなまつり』も開催中で、3月4日(土)には、早稲田佐賀高等学校 1 年生が参加して、多久聖廟から記念館までの約30キロを踏破するという行事も開催されました。



見学の感想を寄せてくれました！ — 唐津市立^{うつぼぎ}菴木小の 4 年生の皆さんより

1 月 26 日(木)に、社会科の見学で、菴木小学校の 4 年生(13 名)が、記念館の見学に来てくれました。4 年生の授業で、佐賀を題材とした学習をすることになり、一人の児童が「大隈重信」について調べたことがきっかけとなり、見学することになったそうです。熱心に聞いてくれる子ども達に少しでも分かりやすく、気遣いながら説明したものの、まだ小学4年生の児童たちにとっては、やはり難しかっただろうと思いました。

この見学について、担任の先生の気遣いもあり、台紙に張り付けた思い思いの感想をメッセージとしていただきましたので、記念館 1 階のカフェで紹介しています。

本当にありがとうございました。また来てください！

